

患者ID:@PATIENTID

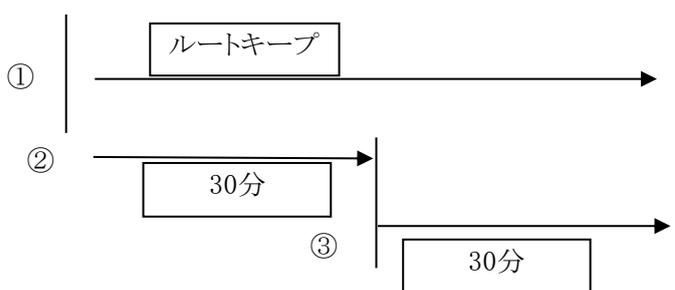
2013.03.06作成

@PATIENTNAME 様

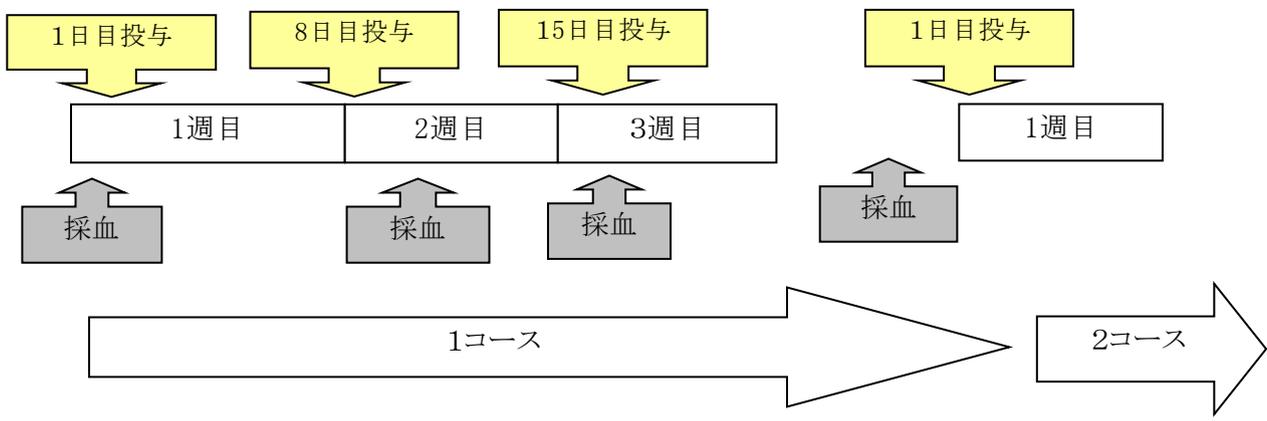
### 非小細胞肺化療(アブラキサン)

指示者	@USERNAME	身長	HEIGHT01_D0	cm			
コース数		体重	HEIGHT01_D0	kg			
		体表面積	#VALUE!	m2	(Mostellerの式)		
					実施印		
					day1	day8	day15
①	薬物/実際の投与量	投与時間	投与経路				
①	生食100mL	ルートキープ	点滴				
②	グラニセトロン3mg1バッグ デカドロン3.3mg2A	30分	点滴				
②	生食100mL アブラキサン100mg/m2 ( )mg/body 最小単位10mg #VALUE! 計算値	30分	点滴				

#### 投与手順



#### スケジュール



## 注意

副作用(%)	アブラキサン		パクリタキセル	
	全体	grade3以上	全体	grade3以上
白血球減少	93.1	48.6	78.7	37.3
好中球減少	90.3	69.4	54.7	2.7
末梢神経障害	63.9	2.8	81.3	13.3
筋肉痛	29.2		60	6.7
関節痛	41.7		68	6.7
倦怠感	5.6	1.4	2.7	
悪心	68.1	1.4	52	
嘔吐	29.2	0	28	2.7

## 治療成績

### CA031試験

アブラキサン100mg/m<sup>2</sup>を30分かけて点滴静注 VS パクリタキセルを200mg/m<sup>2</sup>を3時間かけて点滴静注

奏効率<sup>1</sup>は、アブラキサン群33%[95%信頼区間：28.6-36.7]、他のパクリタキセル群25%[95%信頼区間：21.2-28.5]であり、奏効率比は1.313[95.1%信頼区間：1.082-1.593]であった( $p=0.005$ 、 $\chi^2$ 検定)。日本人集団のサブ解析における奏効率<sup>1</sup>は、アブラキサン群35%[95%信頼区間：24.3-46.0]、他のパクリタキセル群27%[95%信頼区間：16.7-36.7]であった。

	全症例		日本人	
	アブラキサン群 (n=521)	他のパクリタキセル 群(n=531)	アブラキサン群 (n=74)	他のパクリタキセル 群(n=75)
全奏効率 <sup>1</sup> [95%信頼区間]	33%[28.6-36.7]	25%[21.2-28.5]	35%[24.3-46.0]	27%[16.7-36.7]
奏効率比 <sup>1</sup> [95%信頼区間]	1.313[1.082-1.593]**		1.318[0.810-2.143]	
$p$ 値	0.005**		0.263**	

※95.1%信頼区間

※\*\* $\chi^2$ 検定

### ●安全性

アブラキサン群514例(日本人72例を含む)における副作用の発現率は91.2%(469/514例)であり、主な副作用は好中球減少<sup>\*1</sup>(59.1%)、脱毛<sup>\*2</sup>(55.8%)、貧血<sup>\*3</sup>(48.8%)、末梢神経障害<sup>\*4</sup>(45.5%)、血小板減少<sup>\*5</sup>(44.7%)であった。

\*1 好中球減少:好中球減少症+好中球数減少 \*2 脱毛:脱毛症 \*3 貧血:貧血+ヘモグロビン減少

\*4 末梢神経障害:末梢性感覚ニューロパチー+末梢性神経障害+多発性神経障害 \*5 血小板減少:血小板減少症